

こんにちは。研修部の杉元です。

今回は、「視覚障がい者は耳が良いのか？」というテーマでお話してみたいと思います。ときどき「目の不自由な人って、音感がいいんでしょう？」などと言う人がいます。また、私は英語の教員なのですが、「あなたは、目が見えない分耳がいいから、英語が優れているんでしょうね」などと言われたことも一度や二度ではありません。でも、はたしてそうなのでしょうか？

結論から言いますと、一般の人々と同じで、音楽にせよ語学にせよ、得意な人もいれば不得意な人もいる、というのが実際のところですね。本校には、最近小さなピアニストとして地元で有名になった生徒がいますが、それは彼の音楽に対する興味・関心の高さと努力によるものだと思います。私などは、子どもの頃にピアノを習いましたが、さっぱり上達せず3年でやめてしまいました。

では、「視覚障がい者は耳がいい」は全くのたまたまなのか？といえ、それもまた正しくありません。視覚情報が制限された中で、私たちは、他の感覚をフル活用する必要があります。前回は触覚について少しお話ししましたが、触覚と同じくらい重要なのが聴覚です。私たちは、生活のあらゆる場面で、聴覚を活用しています。

ある日のこと、街の通りを歩いていると、突然大音量で音楽が響き渡りました。私は全く知らなかったのですが、その日午後から、大通りを通行止めにして音楽やダンスのイベントが行われることになっていたようです。さあ、たいへんです。ひとまず大通りを抜けて家へ帰ろうと思ったのですが、だんだん今自分がどこを歩いているのか分からなくなってきました。普段私たちは、歩きながら様々な音を手がかりにして、自分の位置を判断しているからです。お店の特徴的なCM音楽、バス停にバスの停まる音、音響信号機の音、車の流れや他の人の足音等々、目が良く見えている人なら気にもとめない、そういった生活音が、私たちにはとても重要なのです。私は大音量の音楽に包まれながら、心にはとてもつらい孤独を覚えつつ、音楽から遠ざかる方へと歩き、どうにか家に帰ることができました。

学校生活においても、同じことが言えると思います。大人数の学級で学んでいる視覚障がいのある子どもは、皆の声や様々な音のざわめきの中で、ときに孤独を感じているかもしれません。

話は少し変わりますが、どこの学校でも避難訓練が行われますね。私たちの学校では、訓練の際非常ベルは、ごく短い間しか鳴りません。視覚障がいのある人は、建物の中の移動にも聴覚を活用しています。特に全盲の方の中には、手で触れる前に障害物を察知できる人が多くいらっしゃいます。中には、それが人なのか、壁なのか、どのくらいの大きさの物なのかまで言い当てることができる人もいます。ところが、非常ベルが、避難する間ずっと鳴り響いていたのでは、そのように聴覚を活用することはできなくなってしまいます。だから、安全を確保する意味でも、皆が移動し始めたら、ベルは止めるべきなのです。

また、学校によっては、清掃の時間に音楽を流すことがありますが、本校では、同じ理由から、音楽を流しません。これらのことは、以前なら視覚障がい教育の場では常識でしたが、視覚に障がいのある子どもの数が減少している今、関係者でもその認識を持たない方もおられるかも知れません。今一度確認しておく必要があるでしょう。

視覚障がい者の聴覚世界について、少しご理解いただけたでしょうか？視覚障がい者は耳がいいというのは、音楽や語学が自然とできるようになる、ということではなく、視覚を補う手段として、聴覚を生活の中で活用する力が高くなる、ということなのです。もしあなたの回りに視覚に障がいのある人がいたら、そんな聴覚世界で暮らしていることを、心に留めていただけたら嬉しいです。